

SDGsで「広め合う、高め合う、助け合う」こおりやま広域圏

福島県郡山市（2019年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

こおりやま広域連携中枢都市圏(17市町村)は、福島県の中央部に位置し、中核市である郡山市を中心に、圏域人口約61万人で県内人口の約3割を占めている。
圏域には、産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所や国立環境研究所福島支部、大学等様々な拠点施設が多数立地しており、「知の結節点」としての特性を活かし「全世代健康都市圏」を創造し健康寿命の延伸を図る。

2. 関連するゴール



3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

- ・「健康」をキーワードに「経済」「社会」「環境」において、持続可能なまちづくりに向けた先導的取り組みを実施する。
- ・地域の産業や社会活動を支えるために「健康」は重要な基礎であることから、医療費・介護給付費の適正化をしつつ健康寿命延伸対策の推進や自律的好循環の形成を図ることにより、持続可能な圏域の創生を行う。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

◆全世代健康都市圏創造事業

- ・介護等関係団体を巻き込んだ福島県立医科大学との協定による共同研究
- ・データに基づく「郡山市の健康課題」を発表し医療・介護等関係機関へ共有
- ・増設した保健センターにて上記データに基づく特定保健指導や健康教室を実施



(健康課題の全体像)

◆普及啓発活動の推進

- ・様々なステークホルダーと連携したSDGsの普及啓発
 - ①企業向けSDGsセミナーの開催
 - ②SDGsに取り組む企業等の表彰
 - ③企業と連携した出前講座の実施



(企業向けSDGsセミナー)

5. 取組推進の工夫

- ・報道機関、企業、市町村、医療機関等、様々な関係機関と連携
- ・慶應義塾大学・第一生命と連携した企業向けSDGsセミナーは、ゼロ予算として年度内に企画・実施し、全国初開催となった。

6. 取組成果

◆全世代健康都市圏創造事業

- ・健康課題に基づき食・運動・社会参加に重点を置いた健康づくりキャンペーンを実施
 - ①健康づくり体験イベント 参加者338人
 - ②ふくしま健民アプリ・限定イベント 参加者834人
 - ③経営者向け健康づくり研修会 参加者88人

◆情報発信・普及啓発

- ・こおりやまSDGsアワードを開催し、広域圏から16件の応募があり7件を表彰。福島民報社と連携した表彰式を開催
- ・NPO及びセブン-イレブン・ジャパンと連携した出前講座を実施し、14の企業等1,224人が受講
- ・毎月17日を「SDGs DAY」と銘打ち、日常に取り入れやすいSDGsアクションをSNSで発信



(こおりやまSDGsアワード表彰式)

7. 今後の展開策

- ・ターゲットを明確にした効果的なアプローチによる健康寿命の延伸対策（EBM）
 - ⇒健診有所見者等へのハイレスクアプローチ
 - ⇒健康への無関心層等を幅広くターゲットにするポピュレーションアプローチ
- ・こおりやまSDGsアワード受賞企業の取組を紹介・横展開し持続可能な地域づくりを推進

8. 他地域への展開状況（普及効果）

- ・第一生命と連携した企業向けSDGsセミナーは、富山県富山市、京都府宮津市などでも開催された。
- ・丸井大宮店で開催された「SDGsでつなぐ東日本連携」(主催：さいたま市)、陸前高田市で開催された東北SDGs未来都市シンポジウム(主催：陸前高田市)、ほかラベル新聞、田舎暮らしの本で郡山市の取組を発信したほか、駒澤大学の視察を受け入れた。